

□海外文献紹介□

血清コレステロールおよび β -リ
ポ蛋白からみた結腸直腸癌発生の
リスク

Risks of cancer of the colon and rectum in relation to serum cholesterol and beta-lipoprotein: *Törnberg SA, et al* (N Engl J Med 315: 1629-1633, 1986)

癌発生と血清コレステロール (Chol) との間には負の相関があるとの報告が多い。著者らはこれらの報告では症例数が不十分で、また、観察期間が短いため subclinical に存在していた癌により血清 Chol が低下していた可能性がある点を問題とし、多数例を対象とした長期 follow-up による国家的規模の調査成績を報告している。

対象は 1963 年から 1965 年の間にスウェーデンで検診受診した 17 ~ 74 歳 (平均 48 歳) の 92,000 余名であ

り、1979 年まで追跡調査された。観察期間中に 528 の結腸癌と 311 の直腸癌が発生したが、初回検診時から癌診断までの期間は平均 9 年と長時間であった。

血中脂質レベルと癌発生の risk との関係をみると、男性では血清 Chol と直腸癌発生との間に有意の正の相関が認められ、Chol 高値群 ($\text{Chol} \geq 276 \text{ mg/dl}$) の Chol 低値群 ($\text{Chol} < 225 \text{ mg/dl}$) に対する直腸癌発生の相対危険度は 1.65 であった。血中 β -リポ蛋白 (β -LP) と直腸癌の risk との間関係も同様で、男性では両者間に有意の正の相関が認められ、更に高脂血群 ($\text{Chol} \geq 250 \text{ mg/dl}$ かつ $\beta\text{-LP} \geq 2.2 \text{ m/dl}$) の低脂血群 ($\text{Chol} < 250 \text{ mg/dl}$ かつ $\beta\text{-LP} \leq 2.0 \text{ g/dl}$) に対する癌発生の相対危険度は、結腸癌 1.62、直腸癌 1.70 となった。女性においても有意ではないが同様の傾向が認められて

いる。

以上のように、今回の著者らの検討では、これまでの多くの報告とは逆に、血中脂質レベルの高いものほど結腸・直腸癌発生の risk が高いという成績が得られた。著者らはこれまでの報告における負の相関関係の多くは、2 年以内に癌と診断されたものを対象から除外すると消失することを指摘し、自らの長期観察による成績の正当性を主張している。

成因論的関連性については、脂肪の長期大量摂取が、一方では血中 Chol および β -LP を上昇させ、他方では胆汁酸分泌を増加させ、その結果として大腸内の胆汁酸濃度が上昇することが発癌と関係する可能性を述べている。

(関東通信病院消化器内科

樋上義伸 抄)